

集計結果 主幹教諭・教諭・講師のみ

※回答割合は四捨五入しているため合計が100%にならないこともある。

※義務教育学校は中学校に含めて集計している。

仕事のやりがい

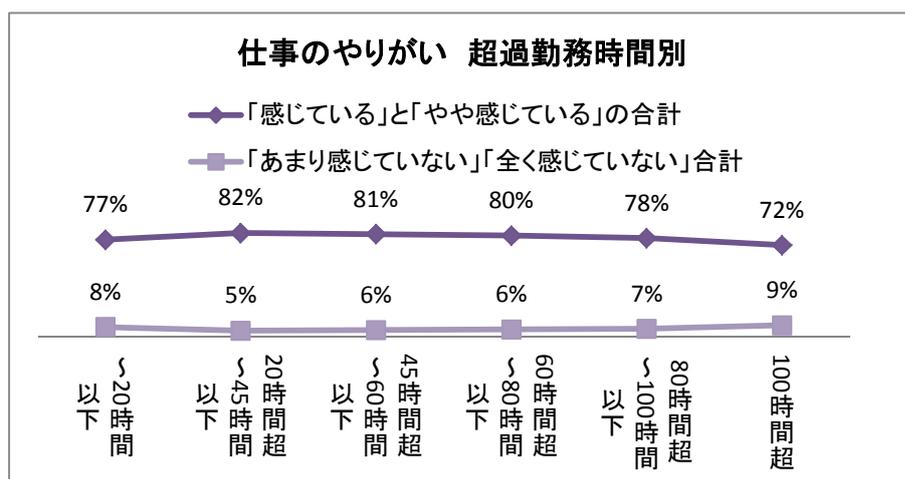
あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか。あてはまるものをひとつ選択してください。

- 感じている
- やや感じている
- どちらともいえない
- あまり感じていない
- まったく感じていない

- 各校種とも8割程度が仕事のやりがいを「感じている」もしくは「やや感じている」と回答している。
- 超過勤務時間別では、100時間超の区分で、仕事のやりがいを「感じている」と「やや感じている」の合計の割合(72%)が他の区分(77%~82%)よりやや減少する一方で、「あまり感じていない」と「全く感じていない」の合計の割合(9%)が他の区分より(5~8%)高かった。

■ 仕事のやりがい

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	総計
感じている	41%	37%	36%	46%	39%
やや感じている	42%	41%	38%	38%	40%
どちらともいえない	13%	15%	16%	12%	14%
あまり感じていない	4%	5%	8%	2%	5%
まったく感じていない	1%	1%	2%	1%	1%
(空白)	0%	0%	0%	0%	0%
総計	100%	100%	100%	100%	100%



昨年度と比較した超過勤務時間

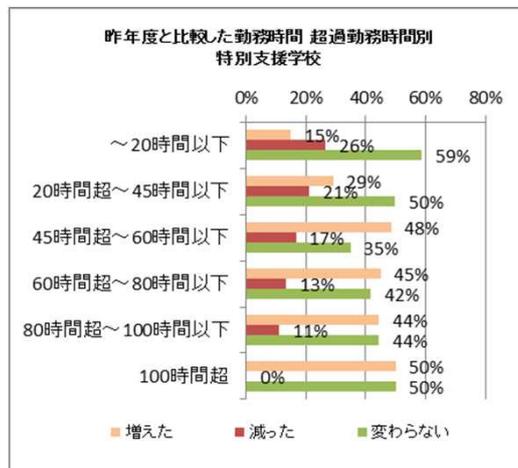
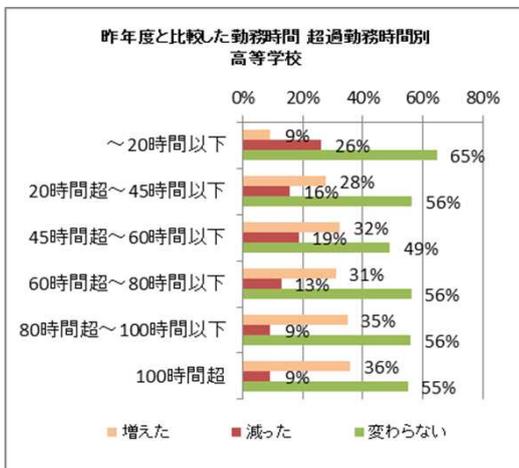
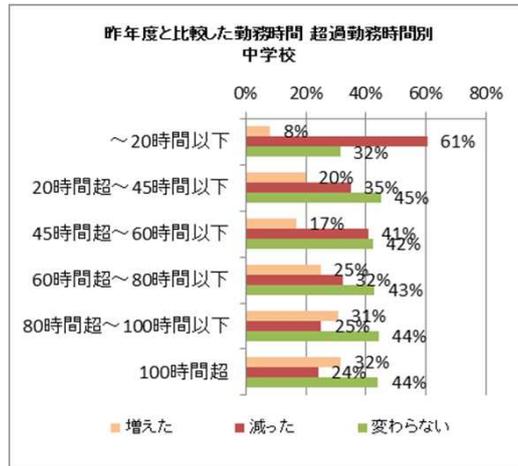
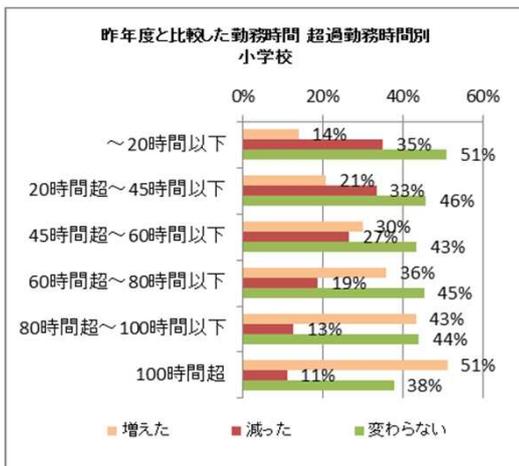
昨年度の同時期と比較して、超過勤務時間についてどのように感じていますか。あてはまるものをひとつ選択してください。

- 増えた 減った 変わらない
 わからない 昨年度は勤務していない

- 超過勤務時間別にみたところ、超過勤務時間が少ない層ほど「減った」の回答割合（超過勤務20時間以下小35%、中61%、高26%、特26%）が高く、超過勤務時間が多いほど「増えた」（超過勤務100時間超小51%、中32%、高36%、特50%）の回答割合が高い傾向が見られた。
- 中学校では超過勤務時間に関わらず「減った」の回答が一定割合選択されている。（超過勤務20時間以下61%～超過勤務100時間超24%）

■ 昨年度と比較した勤務時間

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	総計
増えた	27%	22%	26%	29%	26%
減った	23%	30%	15%	19%	22%
変わらない	41%	39%	51%	44%	44%
わからない	2%	3%	3%	2%	3%
昨年度は勤務していない (空白)	7%	6%	5%	6%	6%
総計	100%	100%	100%	100%	100%

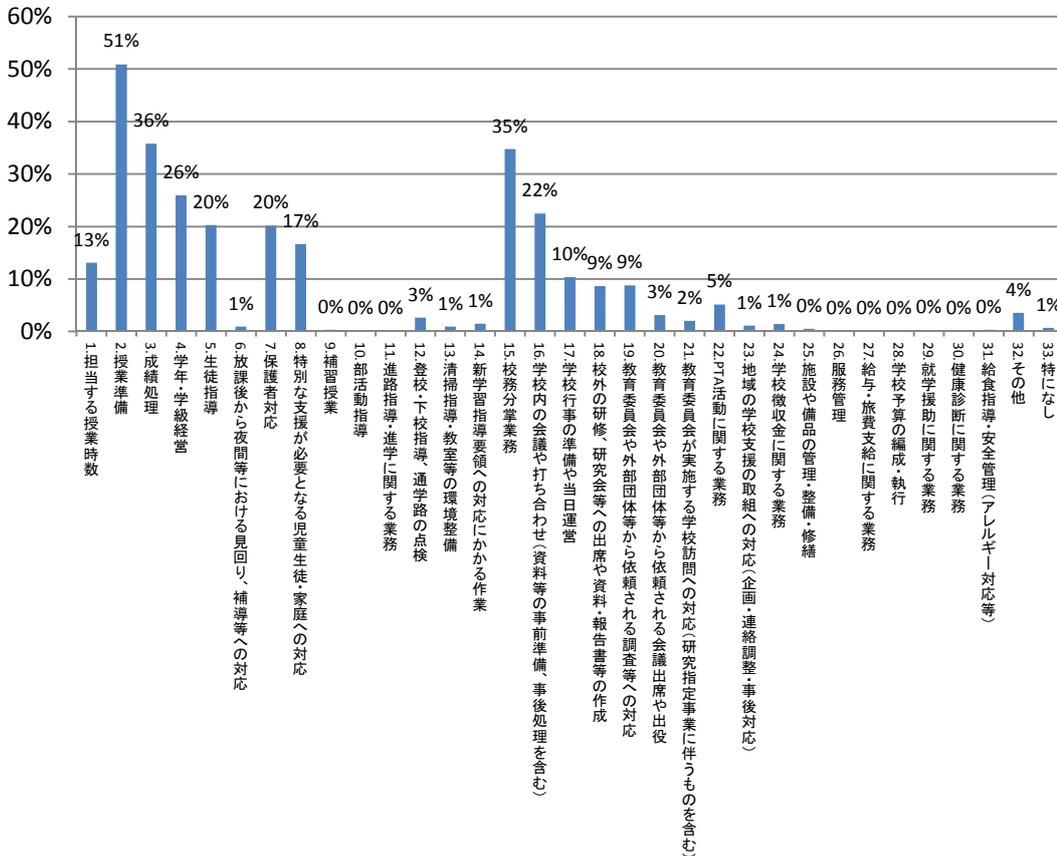


超過勤務の要因となっていると感じる業務

昨年度の同時期と比較して、超過勤務時間についてどのように感じていますか。あてはまるも平成30年4月から現在まで、超過勤務の要因になっているとあなたが特に感じる業務について、次の選択肢から特にあてはまるものを3つ選択してください。（回答は3つまで）

（選択肢は表を参照）

超過勤務の要因となっている業務 小学校



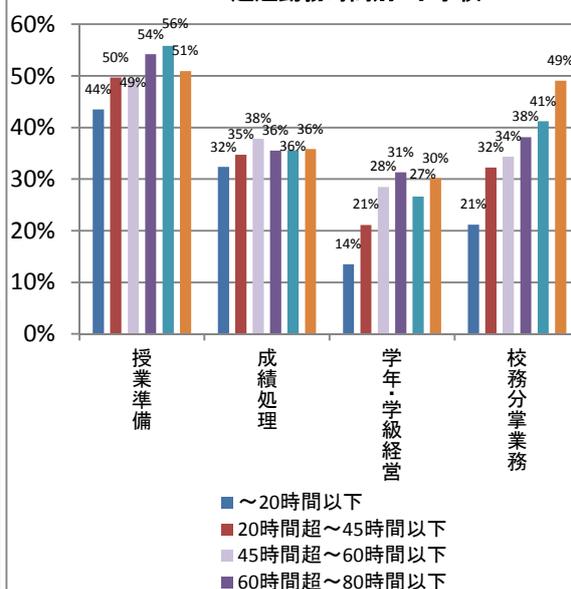
回答割合上位3項目（小学校）

1	授業準備 51%
2	成績処理 36%
3	校務分掌業務 35%

超過勤務時間別の傾向

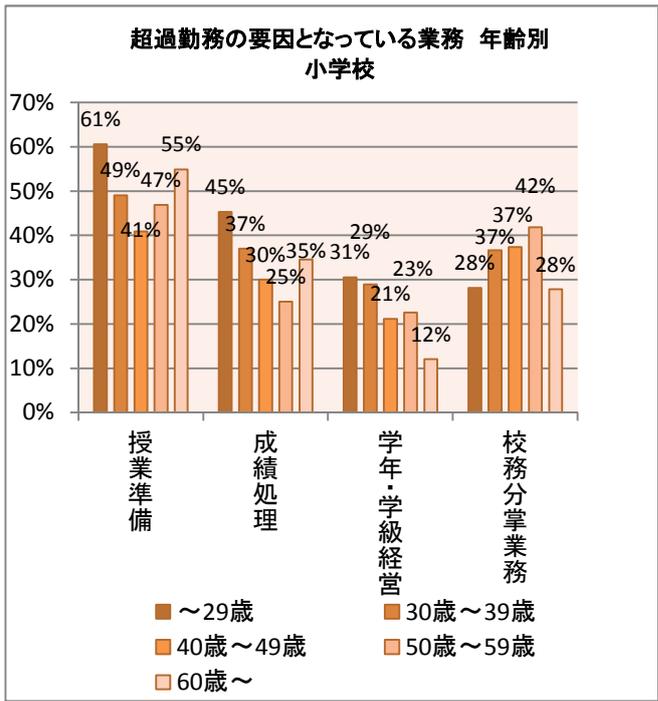
- 超過勤務時間が多い区分になるほど、授業準備、成績処理、校務分掌業務の回答割合が高まる傾向がある。
- 校務分掌業務について、20時間以下では21%に対して、20時間超より多い層では32%～49%となっている。

超過勤務の要因となっている業務 超過勤務時間別 小学校

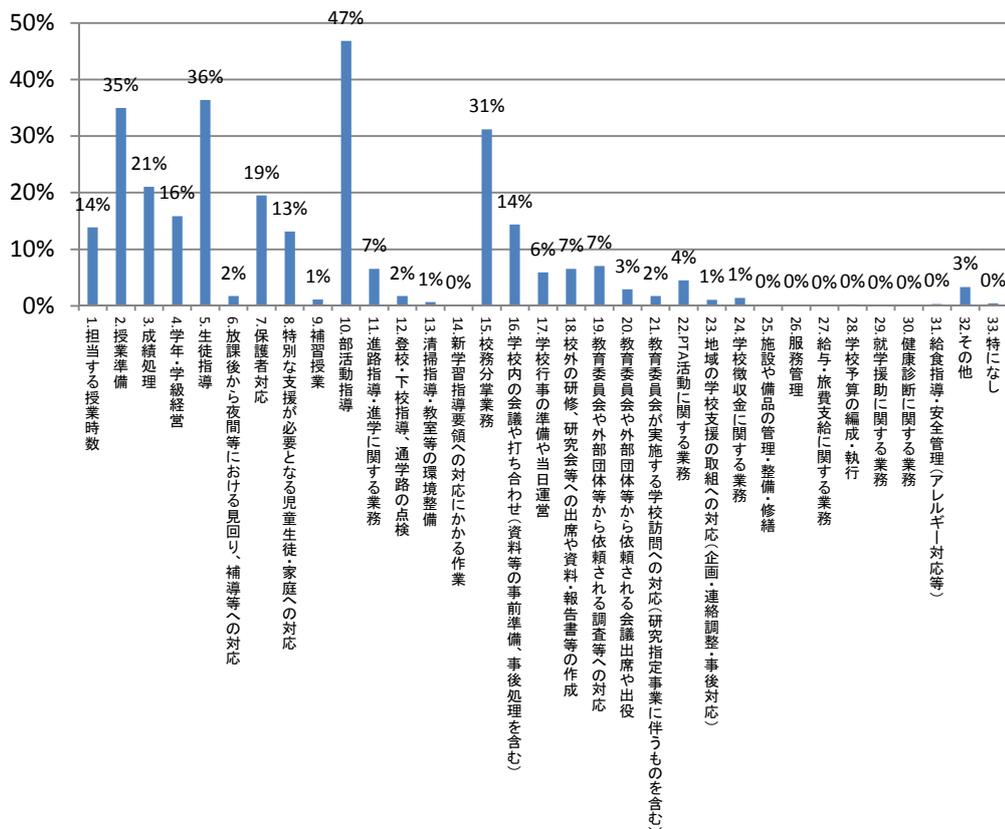


年齢別の傾向

- 29歳以下の年齢層において授業準備(61%)と成績処理(45%)の選択割合が他の年齢層より高くなっている。
- ~29歳および30歳~39歳において、学年・学級経営が他の年齢層より高くなっている。



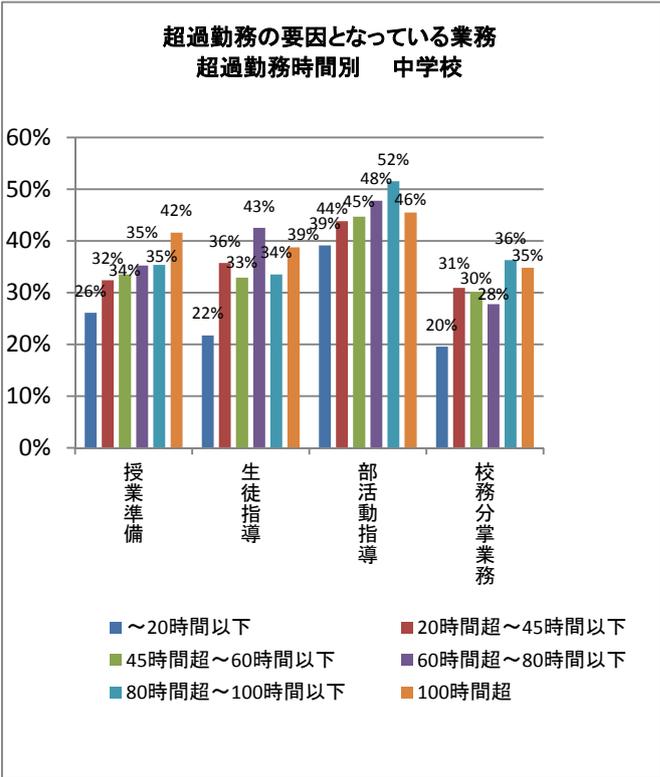
超過勤務の要因となっている業務 中学校



回答割合上位3項目(中学校)	
1	部活動指導 47%
2	生徒指導 36%
3	授業準備 35%

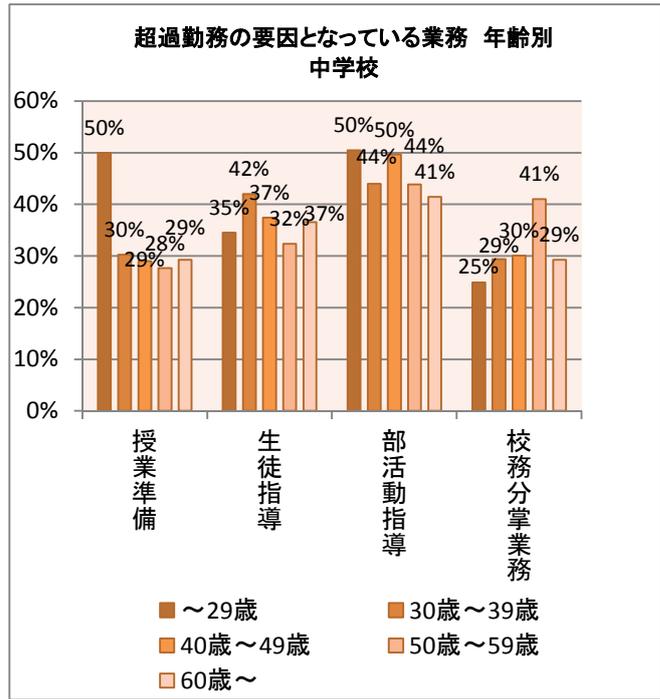
超過勤務時間別の傾向

- 超過勤務時間が多い区分になるほど、授業準備、部活動指導の回答割合が高まる傾向がある。
- 生徒指導について、超過勤務時間の区分が20時間以下では22%に対して、20時間超より多い層では33%~43%となっている。

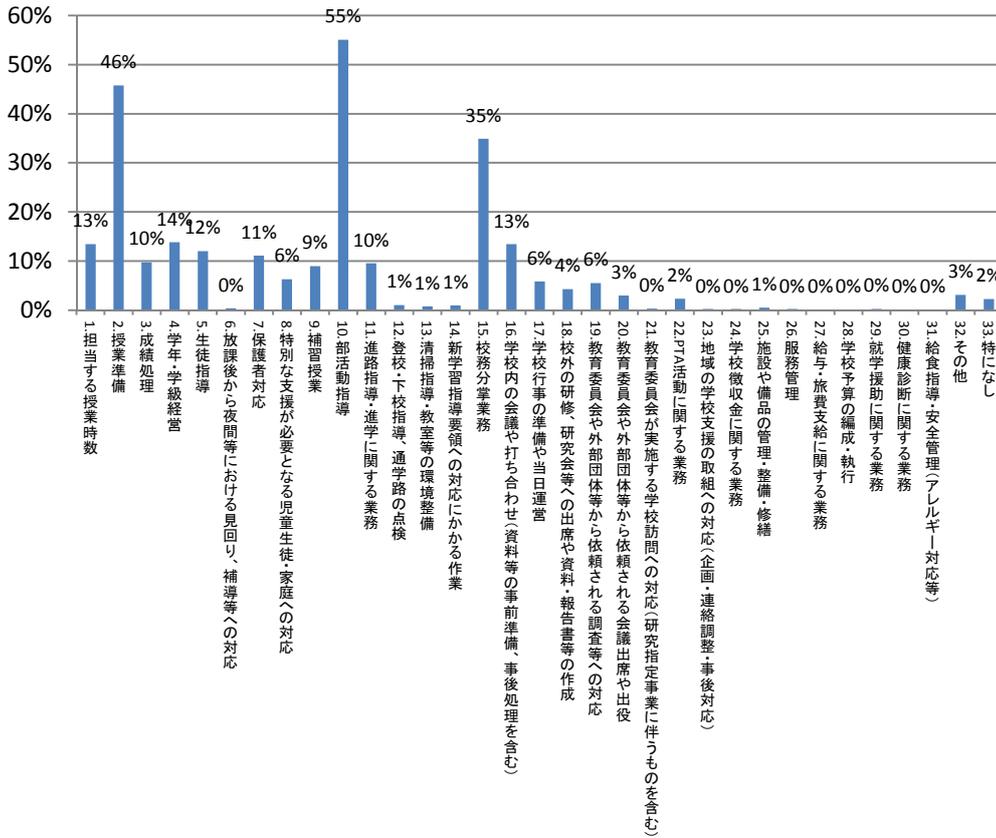


年齢別の傾向

- 29歳以下の年齢層において授業準備(50%)の選択割合が他の年齢層より高くなっている。
- 50歳~59歳において校務分掌業務(41%)が他の年齢層より高くなっている。



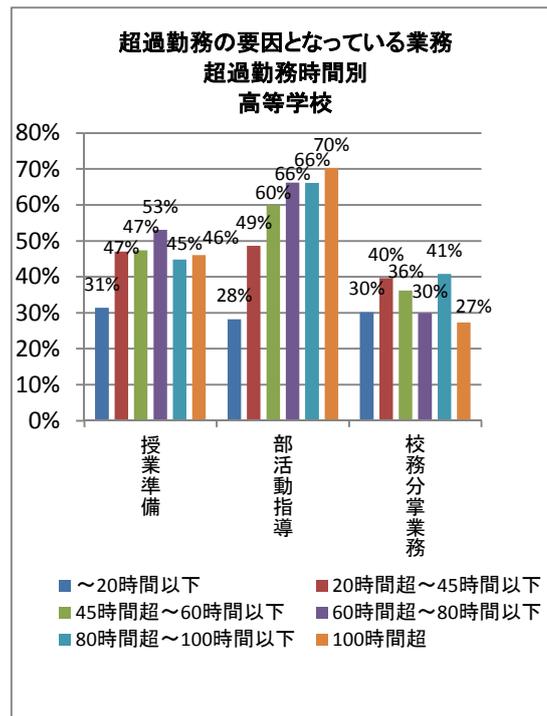
超過勤務の要因となっている業務 高等学校



回答割合上位3項目(高等学校)	
1	部活動指導 55%
2	授業準備 46%
3	校務分掌業務 35%

超過勤務時間別の傾向

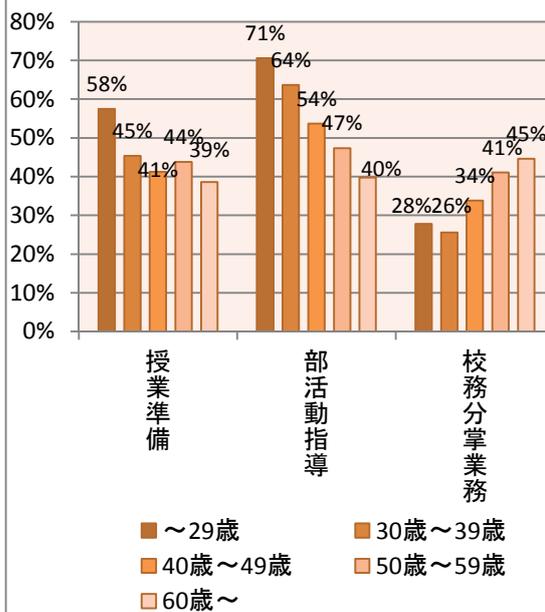
- 授業準備について、超過勤務時間の区分が20時間以下では31%に対して、20時間超より多い層では47%~53%となっている。
- 部活動指導について、超過勤務時間の区分が20時間以下では28%に対して、超過勤務時間が多くなるほど回答割合が高まっている。45時間超より多い層では6割程度(60%~70%)が回答している。



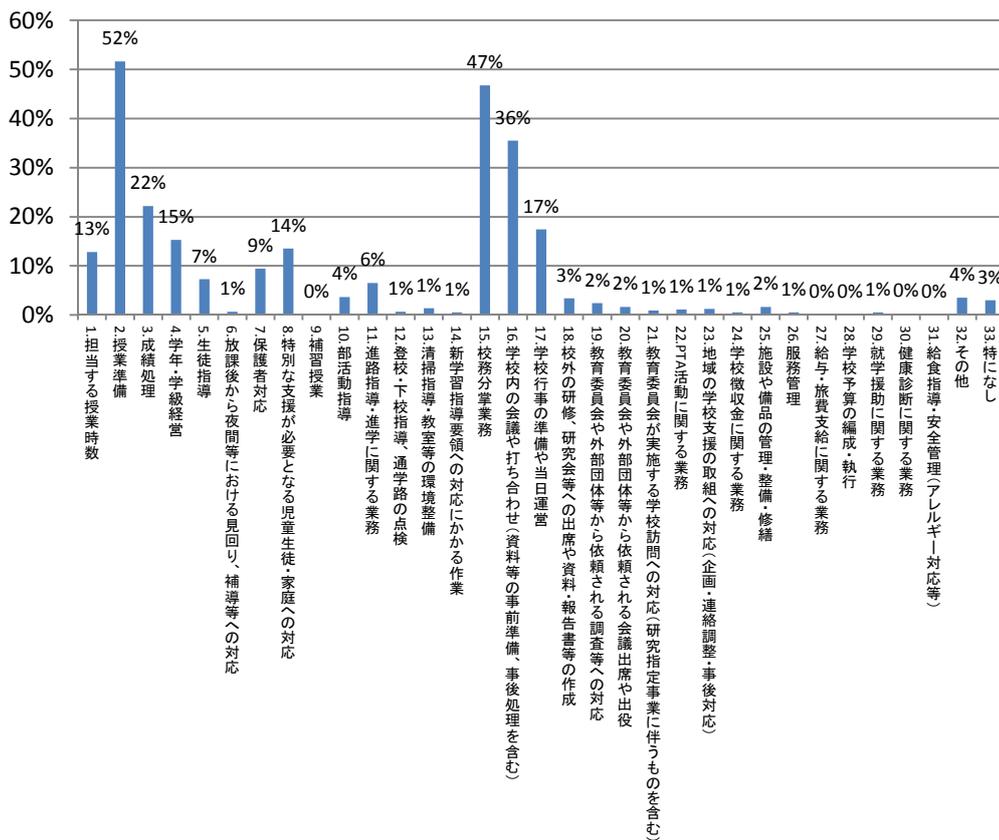
年齢別の傾向

- 29歳以下の年齢層において授業準備(58%)の選択割合が他の年齢層より高くなっている。
- 年齢層が若くなるほど部活動指導の回答割合が高くなる傾向がある。

超過勤務の要因となっている業務 年齢別 高等学校



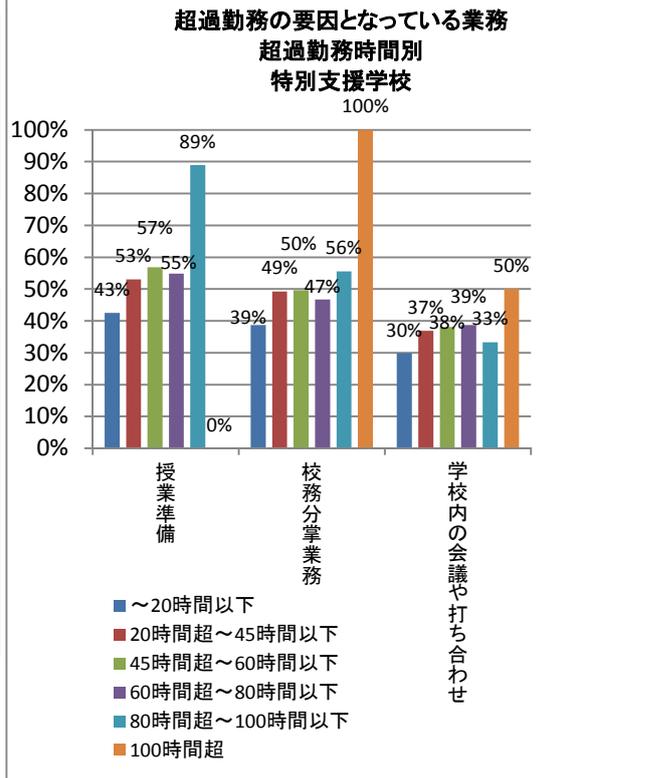
超過勤務の要因となっている業務 特別支援学校



回答割合上位3項目(特別支援学校)	
1	授業準備 52%
2	校務分掌業務 47%
3	学校内の会議や打合せ 36%

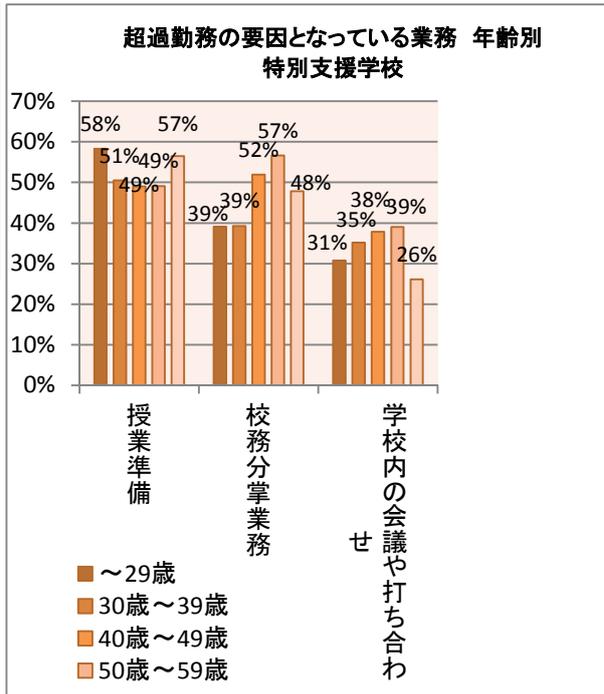
超過勤務時間別の傾向

- 授業準備について、超過勤務時間の区分が80時間以下では43%から57%であるが、80時間超～100時間以下では89%となっている。
 - 校務分掌業務について、超過勤務時間の区分が20時間以下では39%に対して、20時間超より多い層では45%～56%となっている。(100時間超を除く。)
- ※ 100時間超は回答数が極めて少ない(回答数2)ため、他の超過勤務時間の系列より極端な割合となる。



年齢別の傾向

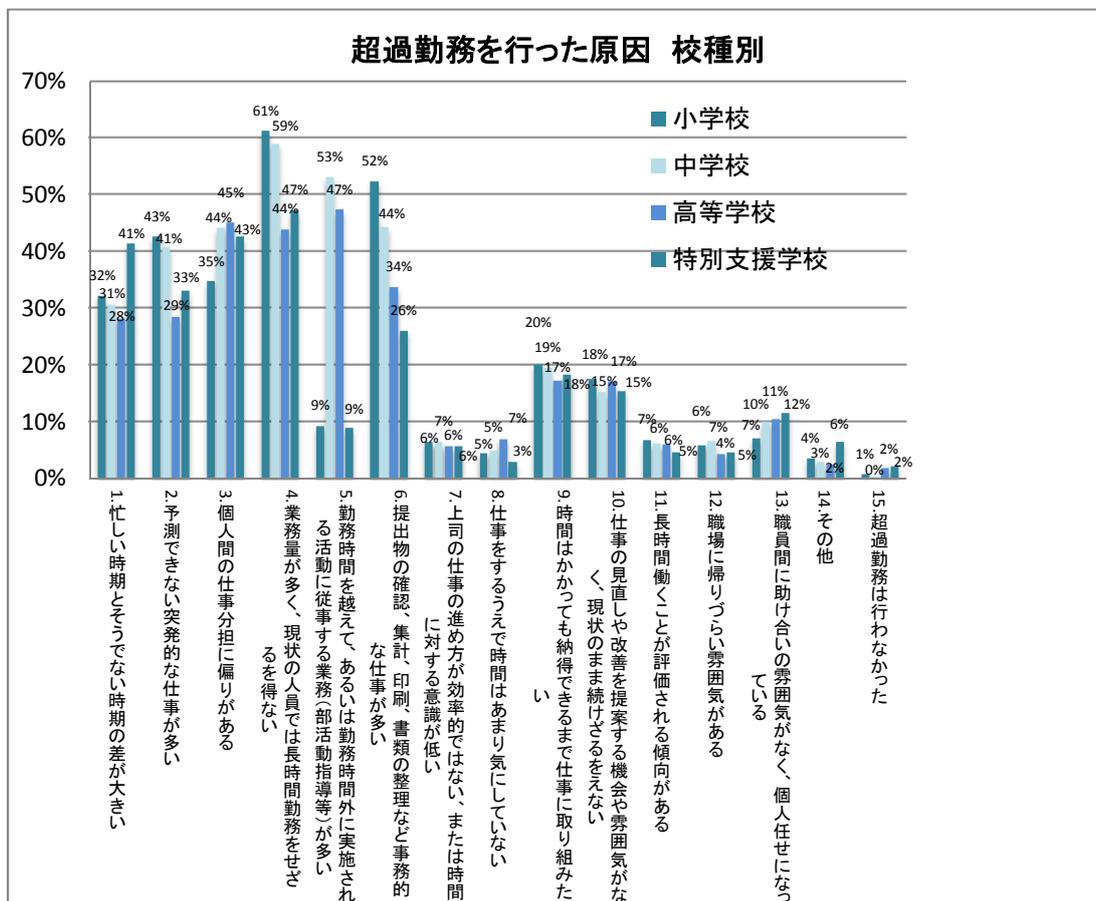
- 40歳以上の年齢層において、校務分掌の割合が高くなっている。



超過勤務を行った理由

平成30年4月から現在まで、超過勤務を行った理由について感じていることを、次の選択肢から全て選択してください。(複数回答可)

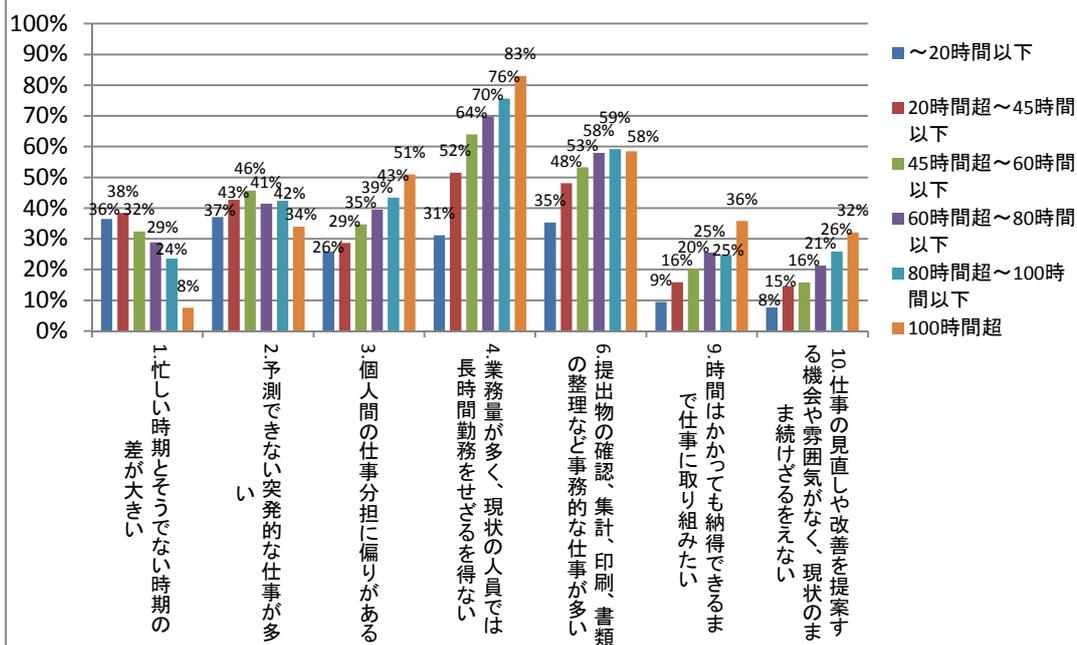
(選択肢は表を参照)



回答割合 校種別 上位3項目

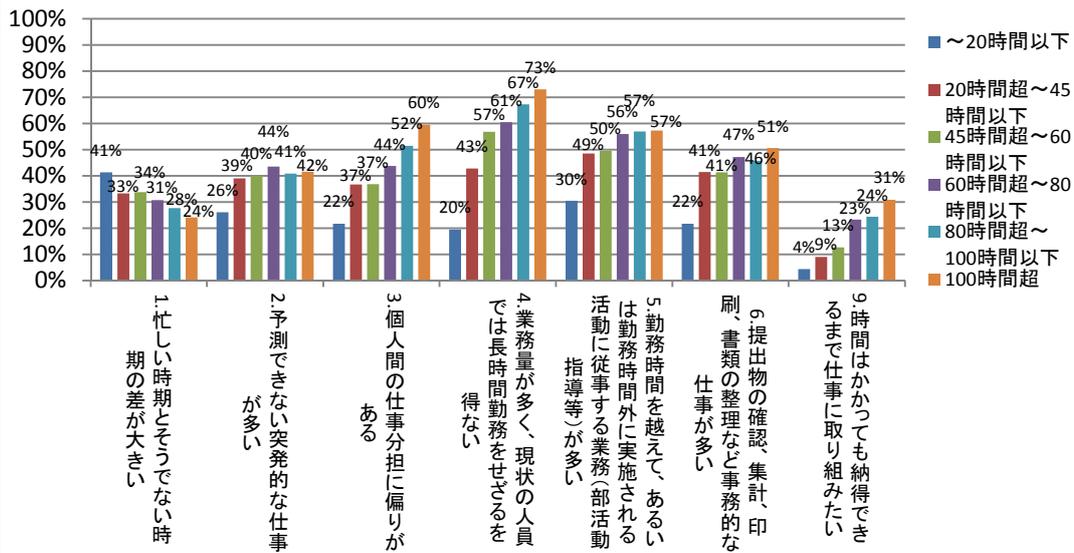
小学校 1	4.業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない	61%
小学校 2	6.提出物の確認、集計、印刷、書類の整理など事務的な仕事が多い	52%
小学校 3	2.予測できない突発的な仕事が多い	43%
中学校 1	4.業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない	59%
中学校 2	5.勤務時間を越えて、あるいは勤務時間外に実施される活動に従事する業務(部活動指導等)が多い	53%
中学校 3	3.個人間の仕事分担に偏りがある	44%
中学校 3	6.提出物の確認、集計、印刷、書類の整理など事務的な仕事が多い	44%
高等学校 1	5.勤務時間を越えて、あるいは勤務時間外に実施される活動に従事する業務(部活動指導等)が多い	47%
高等学校 2	3.個人間の仕事分担に偏りがある	45%
高等学校 3	4.業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない	44%
特別支援学校 1	4.業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない	47%
特別支援学校 2	3.個人間の仕事分担に偏りがある	43%
特別支援学校 3	1.忙しい時期とそうでない時期の差が大きい	41%

超過勤務を行った理由 超過勤務時間別
小学校



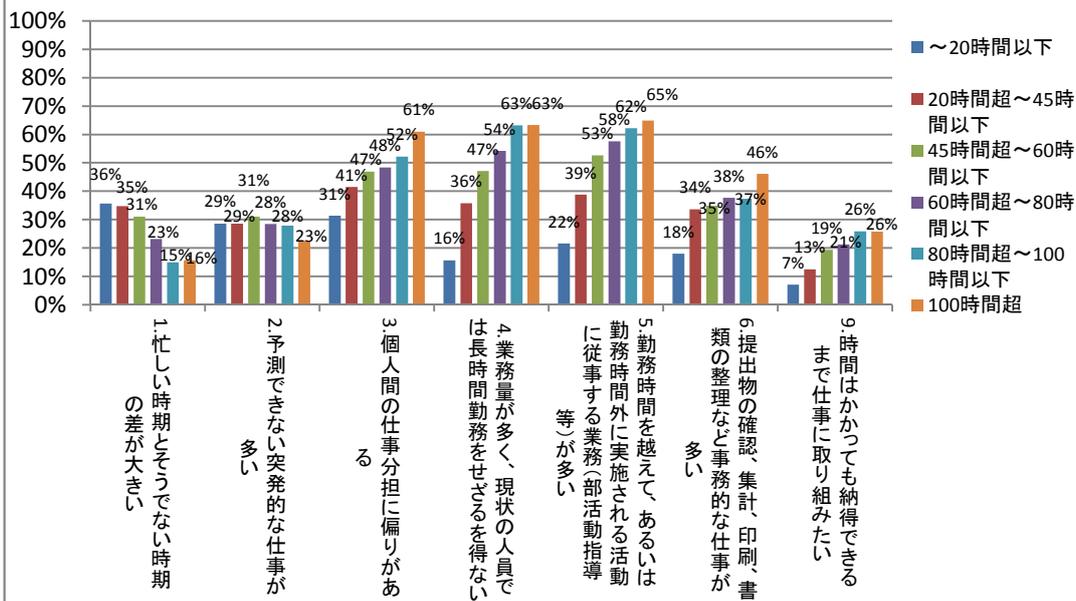
- 超過勤務時間が多くなるほど、「個人間の仕事分担に偏りがある」(20時間以下26%~100時間超51%)、「業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない」(20時間以下31%~100時間超83%)、「提出物の確認、集計、印刷、書類の整理など事務的な仕事が多い」(20時間以下35%~100時間超58%)の選択割合が高まる傾向にある。
- 超過勤務時間が多くなるほど、「時間はかかっても納得できるまで仕事に取り組みたい」(20時間以下9%~100時間超36%)、「仕事の見直しや改善を提案する機会や雰囲気がなく、現状のまま続けざるを得ない」(20時間以下8%~100時間超32%)の選択割合が高まる傾向がある。

超過勤務を行った理由 超過勤務時間別
中学校

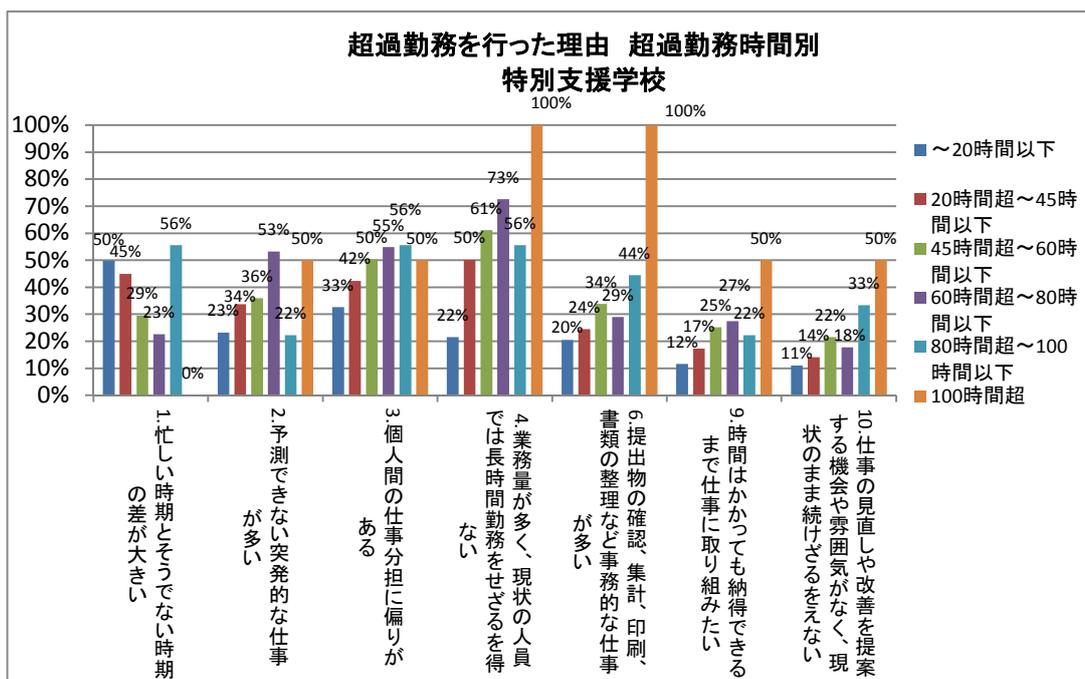


- 超過勤務時間が多くなるほど、「個人間の仕事分担に偏りがある」(20時間以下22%~100時間超60%)、「業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない」(20時間超20%~100時間超73%)の選択割合が高くなっている。
- 超過勤務時間が20時間超より多い層では、「勤務時間を越えて、あるいは勤務時間外に実施される活動に従事する業務が多い」(20時間超~45時間以下49%~100時間超57%)、「提出物の確認、集計、書類の整理など事務的な仕事が多い」(20時間超~45時間以下41%~100時間超51%)の選択割合が高くなっている。
- 回答割合は少ないが、超過勤務時間が多くなるほど、「時間はかかっても納得できるまで仕事に取り組みたい」の選択割合が高まる傾向がある。(20時間以下4%~100時間超31%)

超過勤務を行った理由 超過勤務時間別
高等学校



- 超過勤務時間が多くなるほど、「個人間の仕事分担に偏りがある」(20時間以下31%～100時間超61%)、「業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない」(20時間以下16%～100時間超63%)、「勤務時間を越えて、あるいは勤務時間外に実施される活動に従事する業務が多い」(20時間以下22%～100時間超65%)の選択割合が高くなっている。
- 超過勤務時間が20時間超より多い層では、「提出物の確認、集計、書類の整理など事務的な仕事が多い」(20時間超～45時間以下34%～100時間超46%)の選択割合が高くなっている。
- 回答割合は少ないが、超過勤務時間が多くなるほど、「時間はかかっても納得できるまで仕事に取り組みたい」の選択割合が高まる傾向がある。(20時間以下7%～100時間超26%)

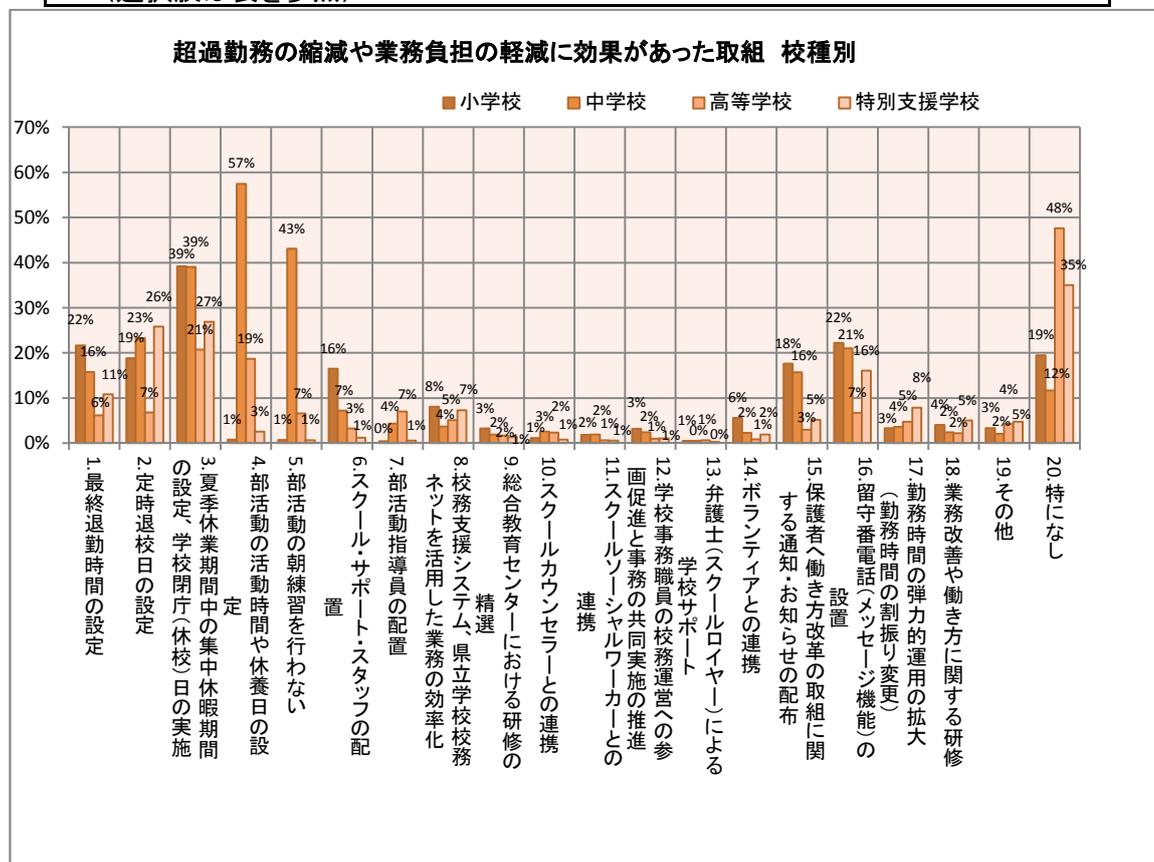


- 超過勤務時間が多くなるほど、「個人間の仕事分担に偏りがある」([20時間以下]33%～[80時間超～100時間以下]56%)、「業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない」([20時間以下]22%～[60時間超～80時間以下]73%)、「提出物の確認、集計、書類の整理など事務的な仕事が多い」([20時間以下]20%～[80時間超～100時間以下]44%)の選択割合が高くなる傾向がある。
 - 回答割合は少ないが、超過勤務時間が多くなるほど、「時間はかかっても納得できるまで仕事に取り組みたい」([20時間以下]12%～[60時間超～80時間以下]27%)、「仕事の見直しや改善を提案する機会や雰囲気がなく、現状のまま続けざるを得ない」([20時間以下]11%～[80時間超～100時間以下]33%)の選択割合が高まる傾向がある。
- ※ 100時間超は回答数が極めて少ない(回答数2)ため、他の超過勤務時間の区分より極端な割合となる。

超過勤務の縮減や業務負担の軽減に効果があった取組

学校における働き方改革の取組のなかで、超過勤務の縮減や業務負担の軽減に効果があったと感じるものを、次の選択肢から全て選択してください。(複数回答可)

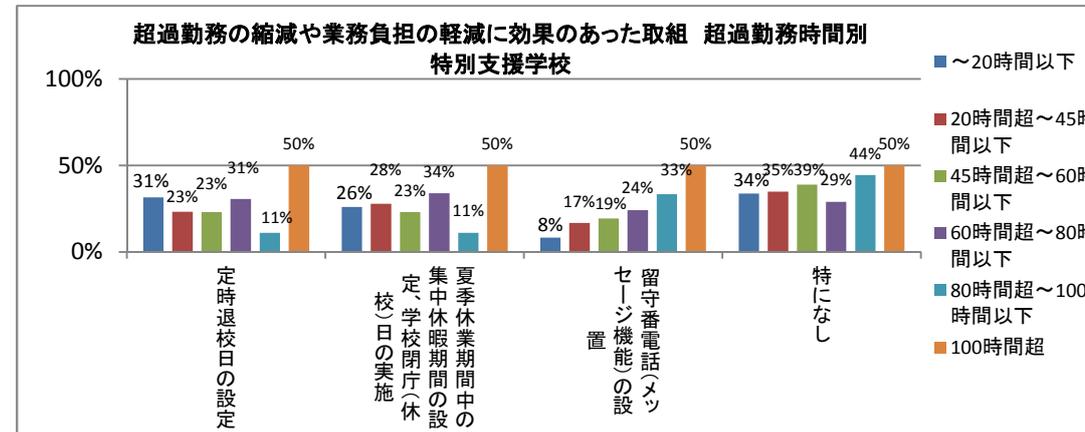
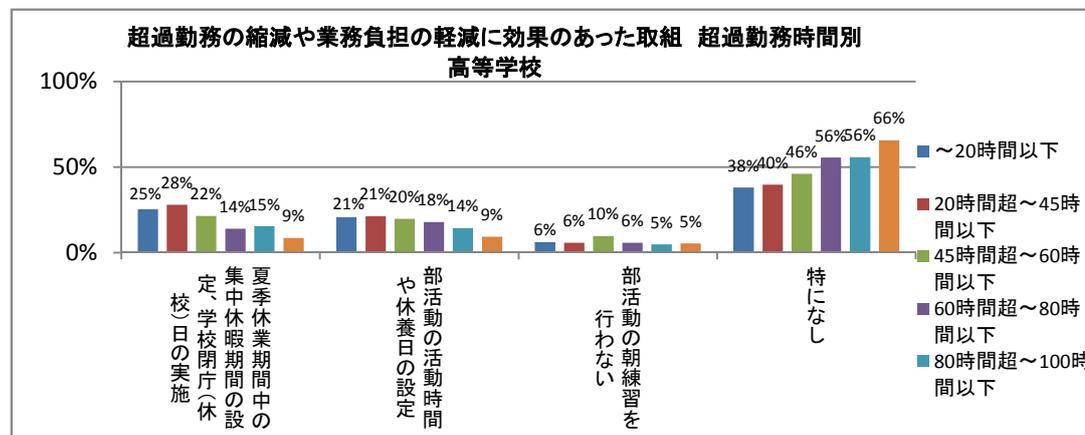
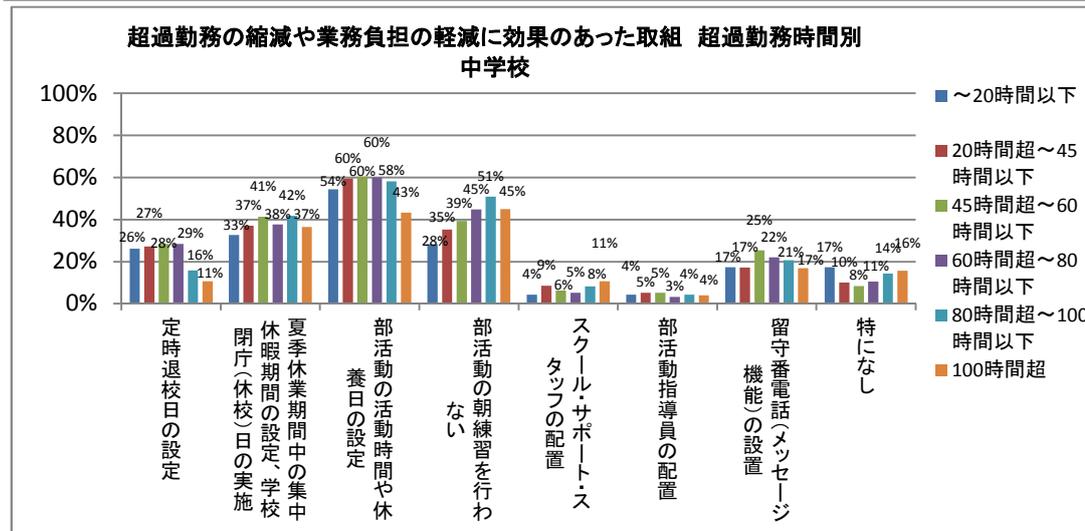
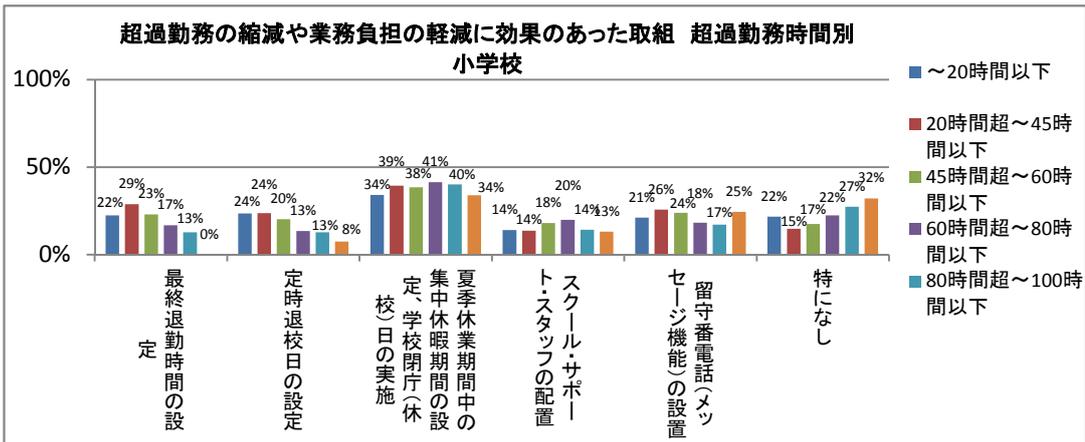
(選択肢は表を参照)



回答割合 校種別 上位3項目

小学校 1	夏季休業期間中の集中休暇期間の設定、学校閉庁(休校)日の実施	39%
小学校 2	最終退勤時間の設定	22%
小学校 3	留守番電話(メッセージ機能)の設置	22%
中学校 1	部活動の活動時間や休養日の設定	57%
中学校 2	部活動の朝練習を行わない	43%
中学校 3	夏季休業期間中の集中休暇期間の設定、学校閉庁(休校)日の実施	39%
高等学校 1	特になし	48%
高等学校 2	夏季休業期間中の集中休暇期間の設定、学校閉庁(休校)日の実施	21%
高等学校 3	部活動の活動時間や休養日の設定	19%
特別支援学校 1	特になし	35%
特別支援学校 2	夏季休業期間中の集中休暇期間の設定、学校閉庁(休校)日の実施	27%
特別支援学校 3	定時退校日の設定	26%

- 中学校では部活動に関する取組が超過勤務の縮減や業務負担の軽減につながっていることが確認された。
- 高等学校では中学校ほど部活動に関する取組が超過勤務の縮減や業務負担の軽減につながっていない。部活動の様態が多様であり取組の浸透がなされにくいことが考えられる。
- スクール・サポート・スタッフの配置、部活動指導員の配置、留守番電話の設置の取組は配置校が限られており、全体に占める回答割合は少なくなっている。

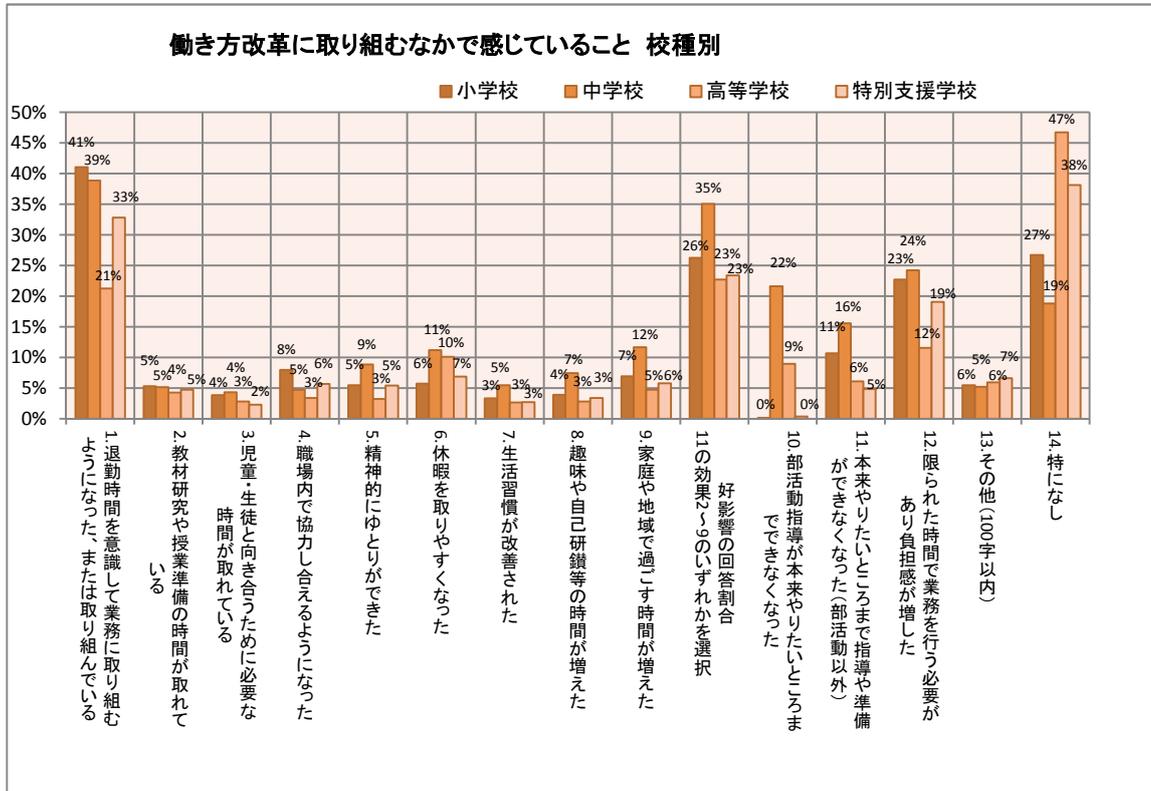


- 中学校では全ての超過勤務時間の区分で「部活動の活動時間や休養日の設定」の選択割合が高かった(43%~60%)。また、「部活動の朝練習を行わない」の選択割合は超過勤務時間が20時間以下では28%、20時間超~45時間以下では35%、45時間超~60時間以下では49%、60時間超~80時間以下では45%、80時間超~100時間以下では51%であり、超過勤務時間が多くなるほど選択される傾向がみられた。
- 高等学校ではいずれの超過勤務時間の区分においても中学校と比較して「部活動の活動時間や休養日の設定」、「部活動の朝練習を行わない」の選択割合が低かった。
- 小学校、高等学校、特別支援学校では、超過勤務時間が多くなるほど「特になし」の選択割合が高くなる傾向があった。

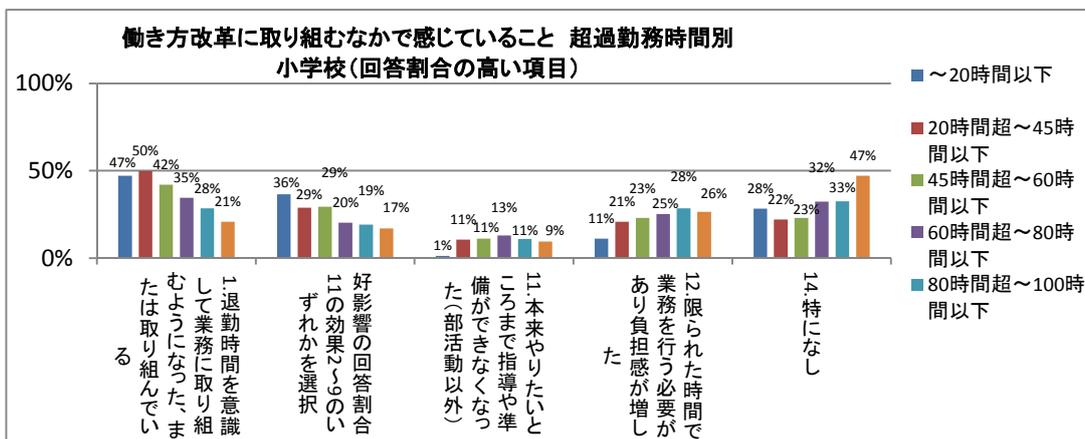
働き方改革に取り組むなかで感じていること

働き方改革に取り組むなかであなたが感じていることについて、次の選択肢から全て選択してください。(複数回答可)

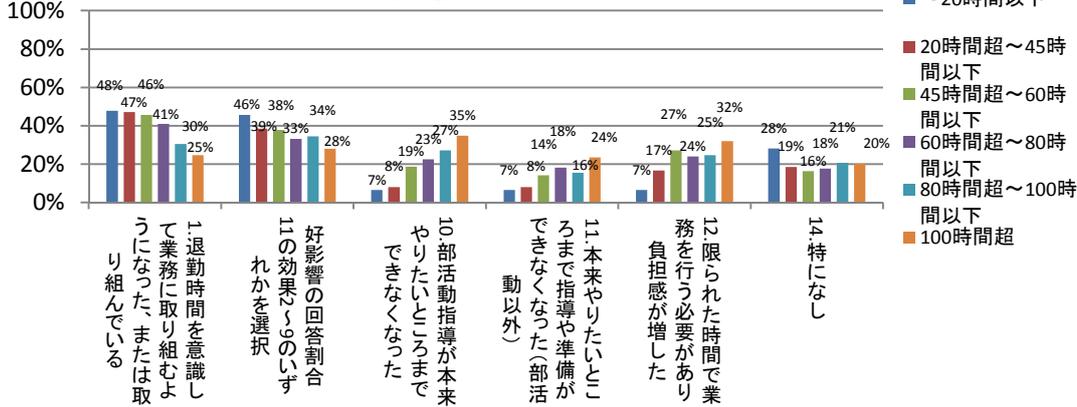
(選択肢は表を参照)



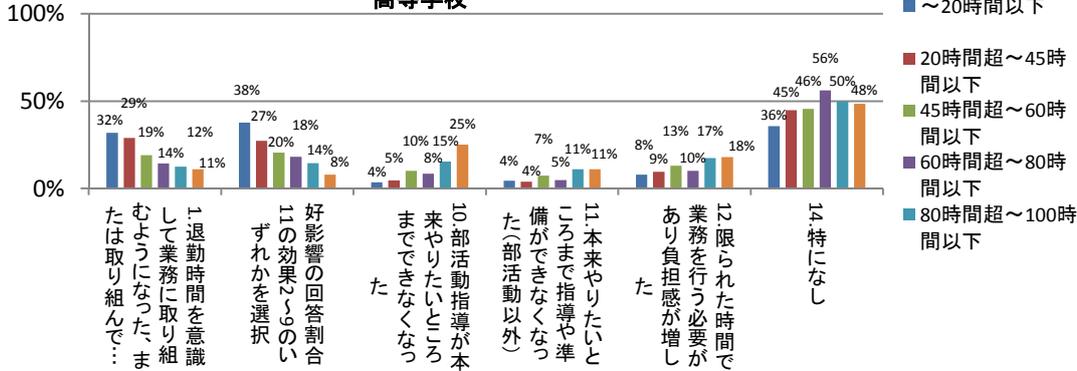
- 退勤時間を意識して業務に取り組むようになった、または取り組んでいるの回答は小学校41%、中学校39%、高等学校21%、特別支援学校34%であった。
- 働き方改革によって何らかの好影響があったとする回答(2~9のいずれかを選択した割合)は小学校26%、中学校35%、高等学校23%、特別支援学校23%であった。
- 「特になし」の回答は小学校27%、中学校19%、高等学校47%、特別支援学校38%であった。高等学校と特別支援学校で回答割合が高くなっている。
- 超過勤務時間別では、全ての校種で超過勤務時間が多いほど「勤務時間を意識して業務に取り組むようになった、または取り組んでいる」の回答割合が低くなる傾向が見られた。



働き方改革に取り組むなかで感じていること 超過勤務時間別
中学校



働き方改革に取り組むなかで感じていること 超過勤務時間別
高等学校



働き方改革に取り組むなかで感じていること 超過勤務時間別
特別支援学校

